

大安場史跡公園春休み企画

昔ばなし

3月23日(日) 13:30~15:00

春は命あるものがイキイキとする季節です。へびも蛙もどじょうも、みんな元気になります。まだまだ風が冷たい弥生三月ですが、春をテーマにした楽しいお話しでほっこりしましょう♪

語り部は、県外でも有名な五十嵐敬子さん(郡山民話語り部の会)と、紙芝居の白濱ミツ子さん(よろず湖南)です。円熟の語り口を楽しみましょう!



五十嵐さん



昨年のような

参加者募集

内容 昔ばなし「ふくろうと蛙」^{かえる}「ひばりとおてんと様」^{さま}「わらびの恩」^{おん}
紙芝居「仏法僧」^{ぶつ ぼうそう}

定員 100名(先着順)

募集 2月23日(日) 午前9時から電話またはガイダンス施設にて受付(月曜日は休館)。

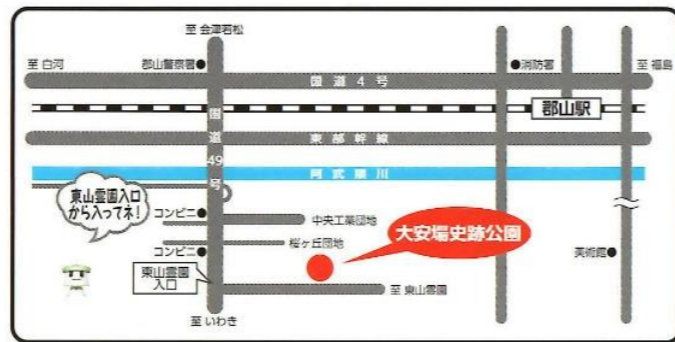
参加料 無料

主催 郡山市/郡山市教育委員会
大安場史跡公園(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

大安場史跡公園

- 住所:福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地
- TEL.024-965-1088 ●FAX.024-965-1090
- Mail.oyasuba@bunka-manabi.or.jp
- 休館日:月曜日(月曜日が祝日の時は次の休みでない日)
- ※公園は年中無休です。

ウェブページもチェック! 大安場史跡公園 検索



編集:公益財団法人郡山市文化・学び振興公社



この印刷物は、FSC®の基準に従って認証された適切に管理された森からの木材を含んだ用紙で印刷されています。紙ヘリサイクル可。



vol. 18

大雪の大安場1号墳

文字どおりの雪山となった園内のように。古墳の上からみえる街なかも真っ白でした。

平成26年の2月は、関東地方を中心に各地で記録的大雪に見舞われ、わたしたちの記憶に残る冬になることでしょう。ここ、大安場史跡公園でも、吹き溜まりでは膝上まで雪が積もり、園内の樹木にも被害がありました。



1号墳の麓では、遊具たちが雪に埋もれていました。



折れた樹木

おおやすばの冬

雪におおわれた園内は、歩きにくいことこの上なしです。いつも散歩にいらっしゃる近所の方たちはノソノソ、雪かきにおわれるスタッフはヘトヘトになります。それでも、暖かい室内ではさまざまに楽しめるみなさんがいて、ホッとするのもこの季節です。



あなただけの土器づくり(上級編)

降雪にかかわらず来園されたみなさんは、静かに作品と向き合っていました。内に秘めた情熱は雪をものともしないのでしょうか...春には文字どおりの熱が加えられて形になります。来年も、熱心なみなさんの参加をお待ちしております!



編集:公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

クローズアップ

展示室の

大刀

本誌第9号に大安場1号墳から出土した大刀をご紹介しましたが、大刀は時代とともに姿を変えてきたことが明らかにされています。そこで今回は展示室で見ることのできるそのほかの大刀についてご紹介します。

正直27号墳出土資料 (古墳時代中期)

全長678mm 刃長551mm 元幅27mm 先幅17mm



正直27号墳は、昭和45年（1970）の発掘調査により、石棺から3体の人骨や多くの副葬品が出土したことで有名な古墳です。大刀1点、剣2点が発見されました。大刀は刀身が非常に細身で薄く、切先がやや丸みを帯びる形状です。剣2点には鹿の角で装飾された部分があることから、大刀にも同様のものが備えられていたと考えられます。大刀のまだ少ない時期に地方で出土した貴重な資料です。



ツカ周辺拡大 | 茎は直線的で二等辺三角形様に端部に至る。端部形状は欠損のため不明。マチ（茎と刃部の間にある段差）は刃側にだけあり、ほぼ直角をなす。目釘穴は茎の端部寄りにあり、中心線上の2箇所に開けられている。

こまかいところも、よく見てみようね！



切先周辺拡大 | 現状の切先は丸みを帯びた形状で、先端は薄く仕上げられている。

参考引用文献
 穴沢味光・馬目順一 1977「熊鷹大刀試論」『福島考古』第18号 福島県考古学会
 池淵俊一 2003「刀剣・矛・戈・素環頭刀」『考古資料大観 7弥生・古墳時代 鉄金銅製品』小学館
 菊池芳朗 2010「第1部 刀剣類からみた古墳時代史の展開」ほか『古墳時代史の展開と東北社会』大阪大学出版会
 白石太一郎 2010「鉄とヤマト王権」『鉄とヤマト王権』大阪府立近つ飛鳥博物館
 豊島直博 2007「古墳時代前期の刀装具」『考古学研究』54-1 考古学研究会

福島雅博 2005「古代金属製刀の年代」『考古学雑誌』第89巻第2号 日本考古学会
 松尾充忠 2003「装飾付大刀」『考古資料大観 7弥生・古墳時代 鉄金銅製品』小学館
 横須賀倫達 2009「測の上1号墳出土遺物の調査と研究」『福島県立博物館研究紀要』第23号 福島県立博物館
 いわき市教育委員会 2010「神谷作106号墳 白穴横穴群」『いわき市埋蔵文化財調査報告第141冊』
 郡山市教育委員会 1972「古墳出土品にある 郡山市の古代大刀展 -大刀類・副葬品等-」『開成館特別展』

測の上1号墳出土資料 (古墳時代後期)

全長1,065mm 刃長845mm ツカ頭最大径75mm



測の上1号墳の資料は、昭和46年（1971）の発掘調査により冑と共に発見されたほぼ完全な姿（有機物を除く）の大刀です。茎を2枚の木製装具で挟んだ上で銀糸巻にしたツカや各種金属製装具など、各部が精緻な造りになっています。また、ツカ頭や鐔・鞘口・鞘尻には金メッキ金具が付いています。東北地方出土の後期以降の装飾付大刀は55点、甲冑と一緒に出土した例は10点（9箇所）にすぎません（菊池2010）。測の上1号墳の被葬者は、中央から認められた相応の有力者であったとみられます。



ツカ周辺拡大 | ツカは中央が細くなっており、片手持ちの形状をとる。

へえ～古墳の大刀にはいろいろな形があるんだね！

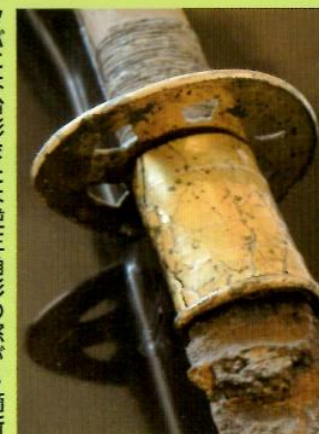


切先周辺拡大 | 切先は鞘尻金具で覆われているが、「フクラ切先」の可能性がある。



ツカ頭の横位中心には懸通孔1点が開く。

ツバには台形または逆三角形の窓が6箇所に開く。



凡例

